

## 第 60 回 KTSM 実技セミナー in 豊橋 開催報告



開催日時：平成 30 年 1 月 27 日（土）11 時 30 分～17 時 00 分（ランチオンセミナーあり）

開催場所：豊橋創造大学 E 棟 愛知県豊橋市牛川町松下 20-1

主催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

共催：豊橋創造大学 保健医療学部看護学科 あい訪問歯科クリニック

後援：株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 株式会社大塚製薬工場  
ラックヘルスケア株式会社<敬称略>

### 開催目的

高齢化に伴い、複数の原因による摂食嚥下障害を有する高齢者が多くなり、医療・介護・福祉での食事ケアの充実、技術の向上が必要とされている。今回食事支援に必要となる、安全安楽なポジショニング、早期経口摂取につなげるベッドサイドスクリーニング評価、安全で効率的、自立を目指した食事介助の基本的事項について知識と技術を習得する。そのことで、食べることに困難を有した人々への効果的な支援ができることを目的として開催する。

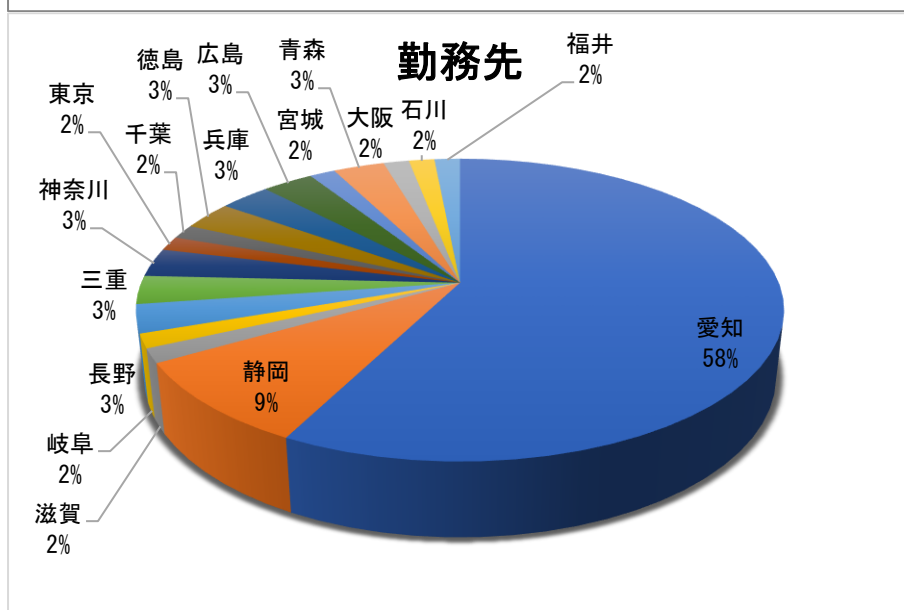
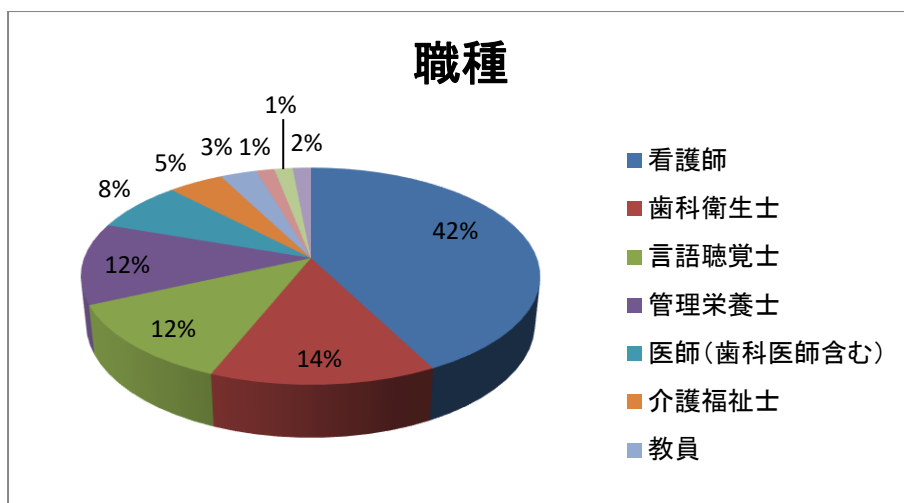
### 講師・アドバイザー一覧<敬称略>

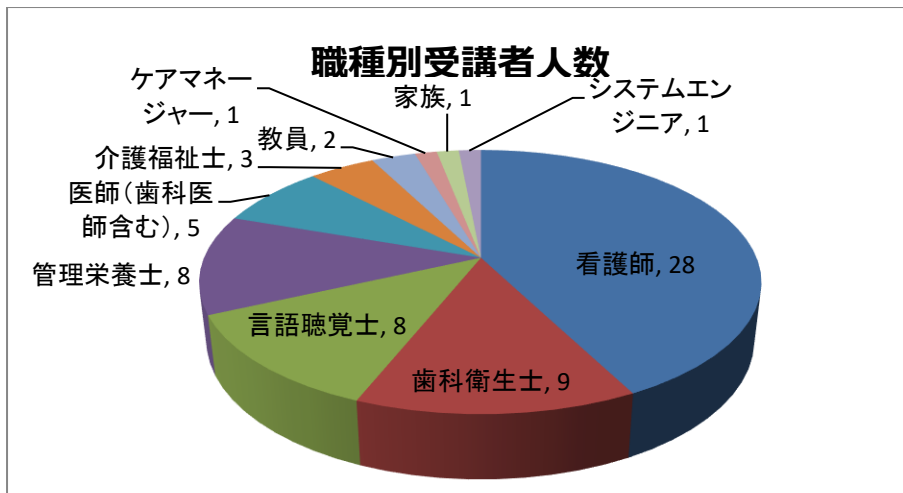
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 （神奈川）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会理事 会長	看護師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士） KTSM 実技認定者
竹市 美加 （大阪）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会副 理事	看護師（摂食嚥下看護認定看護師） KTSM 実技認定者
一瀬 浩隆 （愛知）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事 あい訪問歯科クリニック	歯科医師（日本摂食嚥下リハビリテーション学 会認定士） KTSM 実技認定者
甲斐 明美 （東京）	調布東山病院	看護師（摂食嚥下看護認定看護師） KTSM 実技認定者
金 志純 （東京）	東京小児療育病院	看護師（摂食嚥下看護認定看護師） KTSM 実技認定者

黄金井 裕 (東京)	日本医科大学 多摩永山病院	言語聴覚士 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士) KTSM 実技認定者
高橋 瑞保 (山形)	山形県立中央病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者
上野 美幸 (愛知)	ナーシングホーム気の里	看護師 KTSM 実技認定者

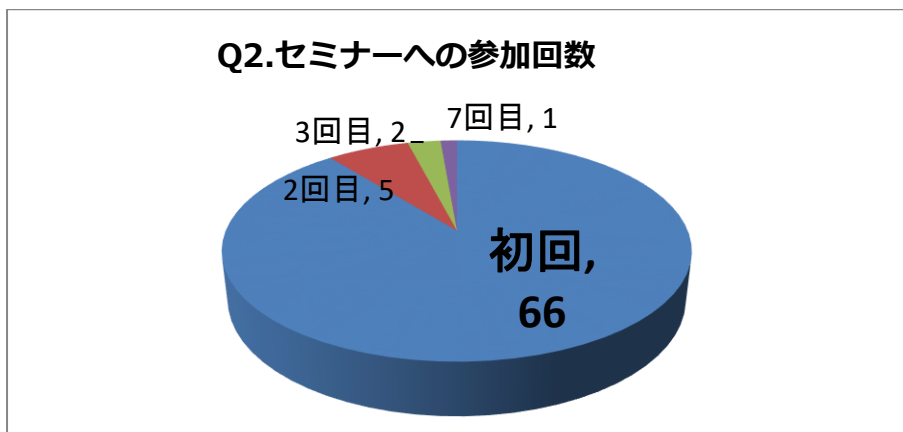
アンケート集計結果 (参加者 : 70 名 回答率 : 94%)

Q1 参加者の職種と勤務先の都道府県





## Q2 KTSM 実技セミナーへの参加回数



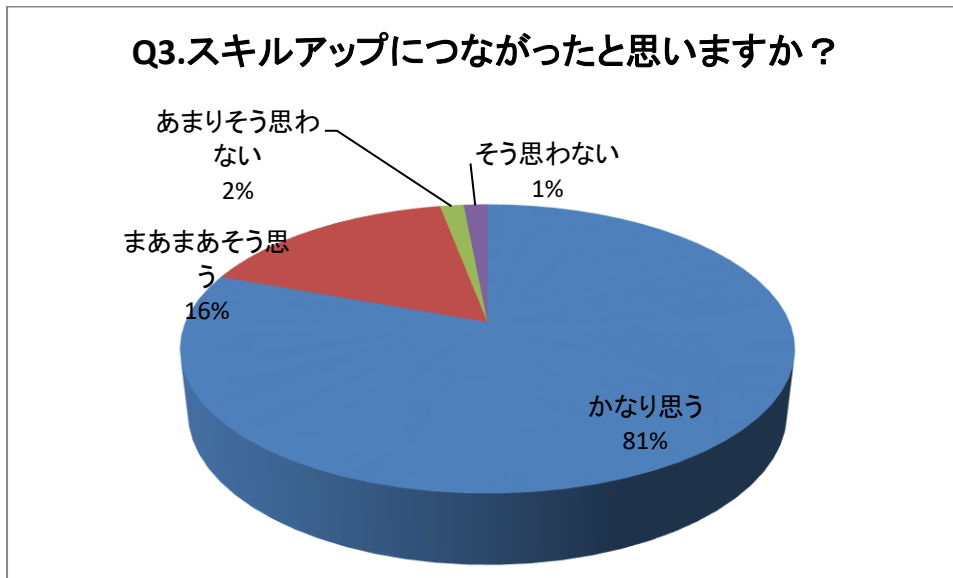
### (参加理由)

- ・嚥下、食事介助の困難さを感じたから
- ・実技を学びたかったから
- ・職場で係や委員会に所属しているため、興味があった
- ・小山先生をTVで知り、バランスチャートを活用してみたかった
- ・勤務先の法人で、講演に来ていただいたのがきっかけ
- ・病棟でターミナル期の患者様と関わる機会が多く、最期まで安全に食べるためには食事介助についての基本的な知識が必要だと思った
- ・実際の症例を通して、興味を持ったため
- ・在宅患者の食事介助をするため、しっかり勉強したいと思ったため
- ・病棟では嚥下の評価をSTに任せてしまっていることが多く、看護師としてもしっかりと

評価をして積極的に進めていきたいと思った

- ・ V F で食事が禁止になる人が多く、また I V H + 経口の方の摂取量がなかなか増えない何とかならないかと感じた
- ・ 障害児施設で働いています。CP の利用者が多く、高齢化が進んでいる。胃瘻造設せずに、経口で食べ続けることが出来るように、少しでも介助法を見つけたいと思った。そして、職員間で同じ目的を持ち、介助できるように進めていきたいと思った。
- ・ 学生指導に役立てたいと思った。
- ・ 今までの食事介助方法が正しいのかを判断したかった
- ・ 安楽に食事が出来るために正しい知識で介助が出来るように伝えたい
- ・ 父が脳梗塞を繰り返しているが、食べる支援を存じない看護師が多く、家族として悲しい思いをしたことがきっかけとなった
- ・ 92 歳になる母のため
- ・ もっと食べられる支援をしたいと思ったため
- ・ K T バランスチャートの使用方法について知りたいと思った
- ・ 食事介助技術についての研修に参加したことがなく、基本的な知識と技術を学び、スキルアップを図っていききたいため
- ・ 口腔ケアについての知識が乏しく、施設で取り入れやすい口腔ケア方法を学び、職員の意識向上につなげたいと思った
- ・ ミールラウンドで正しい知識で指導したい
- ・ 口から食べる権利をもっと真剣に考えたいと思ったため
- ・ 生徒の食べづらさと、食べることが出来る子供たちも胃瘻に変更している多さにどうにか出来ないかと思った
- ・ 気管切開をしている児童の保護者から、経口摂取で少し食べたいという要望がある。また、夫が病気で同じく気管切開をしていて食べたいという希望があるため
- ・ 多職種との連携に必要なスキルだと思ったから
- ・ 誤嚥性肺炎と診断されて入院する入居者が多いため

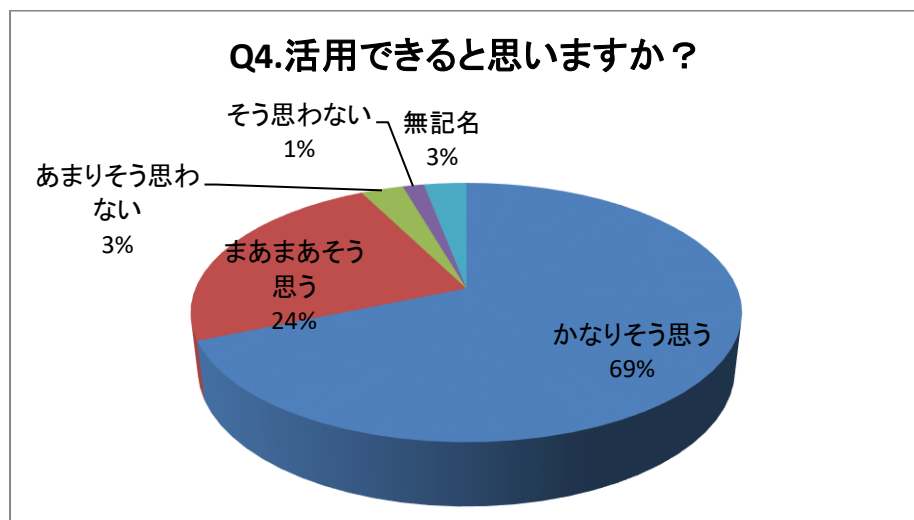
Q3 本日の実践セミナーの内容は、ご自身の口から食べる技術に関するスキルアップにつながったと思いますか？



- ・目から鱗の内容いっぱいでした
- ・何に気を付けなければならないか、ポイントを明確に説明していただきわかりやすかった
- ・自分たちの介助法から見直しが必要だと思った
- ・実際のケア場面で活用できる技術が多くてよかった
- ・具体的な実演で、頭と体で覚えることが出来た。テキストを見直して、定着させていきたい
- ・実技演習が良かった
- ・患者役体験をすることで、気持ちや視点が良く分かった（相手に寄り添う方法が理解できた）
- ・相手の気持ちを考えて、介助していきたいと思った
- ・実技が多く、実際に患者の立場になり考えることが出来ました
- ・今までの介助方法が全く違うことを教わりました。今後につなげていきたい
- ・自分では気が付かないことを教わり、気を付けていきたいと思った
- ・もう少しゆったりと研修がしたい（ついていけなかった部分がある）
- ・2回目の参加で、さらに知識を深めることが出来た
- ・なぜこの肢位が良いのか、理論を実技にもう少し盛り込んでほしい
- ・当たり前のようにしていた自分の行為が原因で食事が進まないことも多いのではないかと気が付いた

- ・何となくではなく、根拠を持って行うことが出来るようになった
- ・両親が食べるのが難しくなってきたときに、活用したい

Q4 本日の実践セミナーの内容は、今後の実践の場面で活用することが出来ると思いますか？



活用できる場合はどのような場面で活用できるか、また活用できない場面も具体的に  
(活用できる)

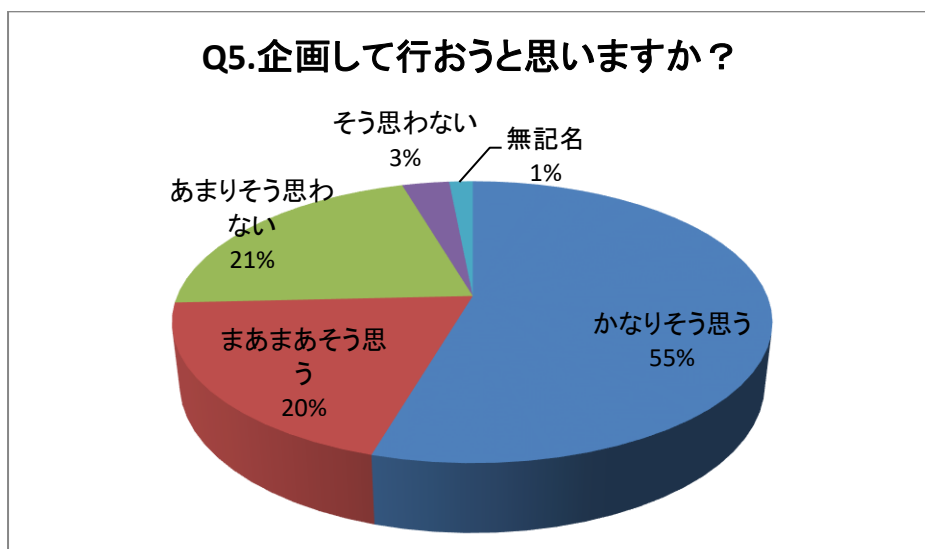
- ・(勤務先での) 姿勢保持、スプーン介助の仕方
- ・スクリーニングも食事介助も良好な姿勢をつくること
- ・実習で、理論的に伝えられるようにしたい。また体験することで、学びが深まるため進めていきたい
- ・先行期をしっかり作ることを心がけていきたい
- ・嚥下訓練中の患者に実施したい
- ・現場、臨床時の勉強会に役立てていきたい
- ・腕が上がらず、前傾姿勢になってしまう利用者があるので、実践していきたい
- ・頸部を前屈させるために枕を重ねて使っている方の枕が重そうで、肩に載っていることが気になっていたが、バスタオルなどをまとめてマットに挟む方法を知り、実践してみたいと思った
- ・ポジショニングのとり方がわかりやすい
- ・視覚情報が大切だということが良く分かった
- ・リハ病棟で食事介助をするときや、自力摂取の人のセルフケア能力を高めるとき

- ・ 介助している職員と共有し食べたいと思っている方に進めていきたいと思う
- ・ 食べている様子を見に行ったとき、気になるところを一人でも多く改善していきたい
- ・ 摂食訓練を希望される患者様に、実践していきたいと思った。本日のセミナーで、自信につながった
- ・ 上肢の失調でセルフケアが難しい患者さん、認知症で食べ遊びがある患者さんに活用したい
- ・ 車いすでの姿勢。肘を支えることの重要性を学ばせてもらった
- ・ 全介助の方でも、認知面での刺激をすることを大切にしたいと思った
- ・ 食べるときの姿勢、先行期が大切だと思った

② まあまあそう思う

→ 今回 1 回だけの研修では、とても実践に活かせる自信が付かない為

Q5 本日の実践セミナーのような研修をご自身の病院、施設、地域で自ら企画して行おうと思いませんか？



- ・ 自分の病院でも実践セミナーとして行えるように自分自身の技術を磨きます
- ・ 介助の仕方やポジショニング
- ・ もう少し知識と技術を付けていきたい
- ・ スプーンの運び方
- ・ 絶食期間を最小限にして、栄養、活動性の必要性を看護師に理解してもらう
- ・ 仲間集めからやりたい
- ・ チームアプローチのためにはとても大切だと思う

- ・在宅訪問栄養指導の場面で活かしていきたい管理栄養士養成後の教員でもあるため、授業を企画したい
- ・職員全員が同じ意識で食事に向き合ってほしいので、自分の病院でセミナーが開催できるようにしていきたい
- ・病院で伝達講習をする予定
- ・講師の先生の費用が見当つかないが、やりたい
- ・すぐに、共有講習を行います
- ・姿勢の作り方を伝えていきたい
- ・食べることへの情熱を教わりました
- ・認知症、家族会での研修や県士会活動

③あまりそう思わないとおもった

→伝える力が不十分なため

→しっかりと伝えられるか不安が大きい

→一般歯科で難しい

→自ら説明するのに、説得力や力強さが自分には足りない

④そう思わない

→企画できるまで、習得できていない

講習を繰り返し受けて、自信を付けたい

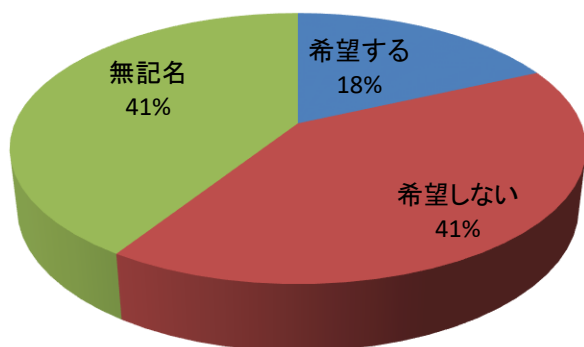
Q6 「口から食べる」ことに関する内容で、今後の実践セミナーで取り上げてもらいたい内容があればご記入ください

- ・認知症の患者さんの食事介助
- ・CPの方の食事介助の指導
- ・このような演習形式の研修にさせていただくとわかりやすい
- ・最後まで食べるための工夫や在宅での家族との取り組み
- ・バランスチャートの活用法
- ・症例の提示と実践
- ・ちまたで正しいことのように伝わっていることの間違いを指摘してほしい



- ・スキルアップのタイミングと見極め
- ・先天性の障害を持った方への食事支援
- ・高齢者、高次機能障害の方以外にも、重度重複障害の子供たちを対象としたもの
- ・基本からステップアップ形式で学んでいけたらと思う
- ・覚醒不良や、食欲低下、開口、閉口の困難な患者など学びたいので、また参加します
- ・愛知県でもう1度やってほしい（名古屋、豊橋）
- ・KTバランスチャートの活用方法を詳しく知りたい
- ・認定看護師の仲間と一緒に獲得し、講義に活かしていきたい

### Q7.実技認定審査を受けることを希望しますか？



### 実技セミナーの様子

#### <全体講義>

「食べる喜びを、あきらめない」（DVD視聴）していただいた後は、小山先生から口から食べる包括的スキルについての講義。小山先生の食べることへの思い、受講生さんたちの表情は、とても真剣で食入るような眼差しで、拝聴されておりました。



## <演習>

### ★ポジショニング・ベッドサイドスクリーニング評価

ベッドを上げていく前の安定した姿勢づくりがとても大切です。足から段階的に目的角度へ上げていきます。安全で安楽な安定した姿勢、頸部角度の調整をしていきます。スクリーニング評価では、頸部聴診法、スプーンテクニックなど基本を押さえていきます。また、その患者さんの状況に合わせた評価方法なども行いました。



★セルフケア能力を高めるための食事介助

ここでは、全介助から、一部介助の食事介助を行いました。リクライニング角度による食べ物の見え方、五感を使用した食物認知の高め方。患者さんの食べる力に合わせた食形態の選定と、その位置に食べ物を置くと飲み込みやすい、または食べやすいのかの違いも体感してもらいました。



### ★車いすでの食事介助

患者さんのセルフケア能力をさらに引き出すための、環境設定もとても大切。

テーブルの高さや食器の配置方法を一つ工夫するだけで、段階的な自力摂取へつながります。

なぜ、こうしているのか？その全てには、根拠があります。各グループ、職種別の特色があり、個別対応（事前アンケートより）を組み込んだ演習も行っていました。





第60回豊橋実技セミナーに参加して下さった受講生の皆様、会場の提供とセミナーのサポートをして下さいました創造大学の教職員の皆様、本当にありがとうございました！  
初の東海地区でのKTSM実技セミナーを、皆様のご協力のもと、開催できたこと、大変感謝しております。  
明日から即実践できる！人に伝えたい！KTSMの実技セミナー！地域から「食べる輪」を広げていきましょう！！

皆様、ご参加いただきありがとうございました！